

インターバンクの声（2015 年 1 月 16 日）

1 月後半に開催される欧州中央銀行（ECB）理事会や米連邦公開市場委員会（FOMC）の政策変更の有無に市場の注目が集まりつつあった中、昨晩はそれどころではないとんでもないことが起こってしまった。東京市場の参加者の一部が帰宅の途につき始めた頃、スイス中央銀行（SNB）が 2011 年後半から導入していたスイスフランの対ユーロ 1.20 の上限撤廃を突然宣言したのだ。SNB によるこの暴挙と言っても良い決定に、スイスフランは短時間のうちに対ドル、対ユーロともに 40%ほど急騰、程なくして安全資産とされる金や円も大きく買われ出した。この対ユーロの上限設定以降、過去にも幾度か 1.20 の防衛ラインを諦めざるを得ないような局面もあったが、その都度ユーロが何とか強含む追い風が吹いたこともあって、意外にも 3 年以上も持ち堪えて来た。ただ今回ばかりは、結果だけから見れば、原油価格の下落に大きく影響されたユーロ安に耐え切れなくなってしまったようだ。それにしても最近まで SNB が対ユーロ 1.20 の上限を貫く宣言をしていただけに、昨夜の決定は驚き以外の何物でもなかった。正直、今日は相場を追い掛けるどころではなく、このスイスフランとユーロの混乱の後始末が主な仕事になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。